



北海道サケネットワーク
ニュースレター 39



2013. 08. 13

季節便り

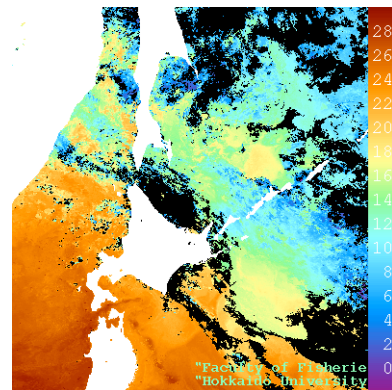
皆様、大変ご無沙汰しております。今回も発信が大幅に遅れて申し訳ありません。8月も半ばを迎えて暑い日が続いておりますが、日本近海のさけ・ます漁業は秋の本番を前に慌ただしさを増しております。今回も、さけ・ますに関わる情報を紹介します。

まず気になるのは、今年の秋サケがどれくらい捕れるのか、ということでしょう。北海道の場合、北海道立さけます・内水面水産試験場が捕れる数を予測しています。それに囚ると、地域差はあるものの、今年の総数は昨年よりやや少なくなりそうです。それでも、その数は約3,800万尾。北海道民が全員で食べても十分に足りる数ですが、スーパーマーケットを廻ってもこんなに捕れている実感はありませんね。

しかし、北海道に帰ってくる秋サケの数が今年も4,000万尾を下回ると4年連続になります。この低水準が今後も続くのか、回復するのか、資源が減った原因は何か等の疑問に答えるには、沖合の調査が不可欠です。北海道区水産研究所では、毎年、サケの主な成育場であるベーリング海で調査を行い、何処の魚が、どの程度の大きさに成長しているのか、サケの餌は足りているのか等の情報収集を行っております。今年も約20日間の調査を終えた北光丸が、去る8月10日に釧路港へ無事に帰港しました。どのような成果が得られたのかについては、後日お知らせできると思います。

また今年から、沖合調査に加え、沿岸でもサケの不漁原因を明らかにするための調査が始まりました。これは、本州から北海道の太平洋側を移動する稚魚を捕まえて、回遊経路、採集地点への到達時期、栄養状態等を調べ、資源が減少した原因の解明に役立てようとするものです。

では、秋サケが帰って来る時に通過する北日本沿岸の水温はどうなっているのでしょうか。右には、北海道大学水産科学研究院が提供している、2013年8月11日の海の表面水温を拝借しました。サケが苦手な水温24℃以上の海域が、まだ広範囲を占めている様子が分かります。そんな状況でも逸早く古里へ帰りたい魚はいるようで、千歳サケのふるさと館の観察窓には8月7日に今年のサケ第一号が顔を見せたそうです。



震災復興プチ情報

昨年のサケネットワーク総会のサケ会議で、浦野代表から紹介があった蓬莱島(ほうらいじま:ひよっこりひょうたん島のモデル)を大槌町が購入し、復興のシンボルとして文化財に指定するそうです(指定区分;記念物、種別;名勝)。

サケネットワーク事務局